

論文の要旨

論文題目 日本語の V-N 型漢語動詞の語構成論的研究
—離脱・帰着を表す動詞を中心に—
氏名 張 善実
学位 博士 (文学)
授与年月日 平成25年5月31日

「離陸する」「着陸する」は、前項が「離」「着」という動詞的要素 V、後項が「陸」という名詞的要素 N によって結合され、V と N はそれぞれ「陸を (から) 離れる」「陸に着く」という意味関係になっている。本研究では、こういった「離陸する」や「着陸する」のような V-N 型漢語サ変動詞 (「(V-N)する」) の意味的特徴および統語的特徴について分析した。

一般に、(1)の「草とりする」や(2)の“poem-reading”のように語の内部に項と解釈される構成要素を含む複合動詞は、語の外部にその項が重複して現れることは日本語でも英語でも許されないとされている。

- (1) a. 草とりする。(島村 1985 : 299)
b. *草を草とりする。(同上)
c. *庭の雑草を草とりする。(同上)
- (2) a. poem-reading. (同上)
b. *poem-reading of poems. (同上)
c. *poem-reading of romantic poems. (同上)

このような現象は、(3)、(4)のように中国語の動詞にも見られる。

- (3) a. 他除草。(彼は除草する)
b. *他除草草。(彼は草を除草する)
c. *他除草院子的杂草。(彼は庭の雑草を除草する)
d. 他除掉了院子里的杂草。(彼は庭の中の雑草をとり除いた)
- (4) a. 飞机着陆了。(飛行機は着陸した)
b. *飞机着陆陆了。(飛行機は陸に着陸した)
c. *飞机着陆成田机场了。(飛行機は成田空港に着陸した)
d. 飞机在成田机场着陆了。(飛行機は成田空港で着陸した)

しかし、興味深いことに、日本語の V-N 型漢語動詞の場合は、(5)のように語の外部に項を重複してとることができないものもあれば、(6)~(11)のように外部に項を重複してとることができるものもある。

- (5) a. 昨日は家で読書した。
b. *昨日は家で源氏物語を読書した。

c. 昨日は家で源氏物語を読んだ。

- (6) 花子が庭の雑草を除草する。
- (7) 洋子がわき毛を脱毛する。
- (8) 飛行機が空港を離陸する。
- (9) ジョンがアメリカを出国する。
- (10) 飛行機が空港に着陸する。
- (11) ジョンが日本に入国する。

V-N 型漢語動詞について今まで多くの研究がなされ、(ア) 語内部の V と N の造語パターンの違いと、(イ) 語全体の項 (N'P) の有無という 2 点を中心に行われてきた。このうち (イ) のタイプの研究では、小林 (2004) や中川 (2005) によって N'P が要求される場合、N'P と N とがいかなる意味関係にあるかについて論じられてきた (具体的には、①包摂関係 (「大学に入学する」)、②所属関係 (「花子の手紙を開封する」、③「前提関係」 (「CDを録音する」))。以上の研究により、V-N 型漢語動詞の意味的・統語的特徴は明らかにされつつある。しかし、これらの研究は V-N 型漢語動詞が外部に項をとるか否かという一般論としての大枠を提示するに留まっており、どのような動詞がどのような項をとるかまで掘り下げて分析されているわけではない。

そこで、本研究ではこのような V-N 型漢語動詞の意味的・統語的特徴を考察するに当たって、N と N'P との関係に動詞自身の意味をも考慮した V と N と N'P の 3 つの要素を合わせて考察することが有効であると考え。具体的には、(i) 語の内部構成 (V と N の意味関係)、(ii) 語の外部構成 (「(V-N)する」と N'P の意味関係)、(iii) N'P と N の意味関係の 3 つの側面からの分析である。

本研究の分析対象は、以下の (A)、(B) の動詞で、それぞれ離脱を表す動詞 5 つ、帰着を表す動詞 5 つである。

(A) 離脱を表すもの：

「除 N」：除草、除雪、除菌、除湿、除染、除幕、除籍、除名、除隊

「離 N」：離陸、離職、離席、離縁、離村、離水、離党、離岸、離婚

「脱 N」：脱水、脱毛、脱色、脱臭、脱脂、脱税、脱帽、脱獄、脱会

「授 N」：授賞、授章、授戒、授乳

「出 N(1)」：出国、出獄、出牢、出港、出京、出郷、出家、出庫、出土

(B) 帰着を表すもの：

「帰 N」：帰国、帰島、帰港、帰社、帰宅、帰任

「着 N」：着陸、着岸、着席、着座、着水、着任、着色、着手、着工

「入 N」：入国、入場、入会、入隊、入学、入院、入社、入賞、入札

「受 N」：受診、受験、受講、受注、受任、受信、受賞、受章、受傷

「出 N(2)」：入社、出校、出場、出廷、出府、出席、出講、出漁、出勤

離脱・帰着を表す動詞は、空間での移動が問題となっており、構文上〈移動物〉と〈離脱点〉、〈帰着点〉を表す項が想定される。本研究では V-N 型漢語動詞が統語的に N'P をとる場合、N が〈移動物〉、〈離脱点〉、〈帰着点〉のどれを表すかによって N'P の意味役割が決まるという仮説のもと分析を行った。その分析結果は以下の4つにまとめられる。

第一に、(i) 語の内部構成の特徴について見ると、この種の動詞の内部構成は V の意味によって決まることが分かった。離脱を表す動詞（「除 N する」、「離 N する」、「脱 N する」、「授 N する」、「出 N する(1)」）の場合は、① [V+N 〈移動物〉]、② [V+N 〈離脱点〉] のパターンに分類されるのに対し、帰着を表す動詞（「帰 N する」、「着 N する」、「入 N する」、「出 N する(2)」）の場合は、① [V+N 〈移動物〉]、② [V+N 〈帰着点〉] のパターンに分類されることが明らかになった。

第二に、(ii) V-N 型漢語動詞の外部構成について見た。これについてはさらに「V の自他と「(V-N)する」の自他の関係」および「対象格と場所格の連続性」の2点に分けて分析した。

まず、「V の自他と「(V-N)する」の自他の関係」について見ると、この種の動詞は V の自他と「(V-N)する」の自他が一致するものが大多数であることが分かった。具体的に、V が自動詞用法の場合は「(V-N)する」も自動詞用法、V が他動詞用法の場合は「(V-N)する」も他動詞用法、V が自他両用動詞の場合は「(V-N)する」も自他両用動詞の場合が圧倒的に多い。これは V-N 型漢語動詞の自他性がその構成要素である V の自他性と深く関わることを物語っている。

次に、「対象格と場所格の連続性」について見た。従来、ヲ格は大きく「卵を割る」の「卵を」や「ドアを叩く」の「ドアを」のように「対象」を表す場合と「3番ホームを出る」の「3番ホームを」や「橋を渡る」の「橋を」のように「場所」を表す場合があり、近年このような対象格と場所格は連続体を成すとされている。その現象は本研究の V-N 型漢語動詞においても見られた。例えば、「除草する」は (12) のように「庭の雑草を除草する」、「庭を除草する」、「庭から雑草を除草する」の3つの構文をとることができる。

(12) a. 花子が 庭の雑草を 除草する。
 〈移動物〉

b. 花子が 庭から 雑草を 除草する。
 〈離脱点〉 〈移動物〉

c. 花子が 庭を 除草する。
 〈離脱点〉

第三に、N'P と N の意味関係について見た。この種の動詞が外部構成において項 (N'P) をとる場合、その N'P と N がいかなる意味関係を持つかについても考察し、「上位語-下位語」関係、「所有者-所有物」関係、「所属先-所属物」関係の3つの意味関係が見られた。従来、V-N 型漢語動詞の N'P と N の意味関係には包摂関係、所属関係、前提関係が指摘されているが、それぞれの関係の分類基準が明確ではなかった。本研究は N'P および N が V においてどのような意味役割を果たすか、つまり N が〈移動物〉を表すのか、〈離脱点〉を

